七高僧⑥　源信和尚

今月は寺報九月号に続き、七高僧第六祖「源信和尚」を紹介します。

源信和尚の略歴

源信和尚は西暦九四二年に大和国当麻に生まれ、七歳の時父と死別。父の遺言で出家することになり、九歳で比叡山に登り、学問研究に専念されました。その英才を師に認められ、十五歳で村上天皇の命により、法華の講師をつとめ、南都北嶺の僧侶たちを驚嘆させ、帝から布帛の賞を賜りました。その時和尚は感激のあまり、これを郷里の母に送ったところ、母はそれを受けず、かえってこのことを嘆き、「後の世を導く僧とたのみしに、世渡る僧となるぞ悲しき」という歌を添えてこれを返され、名聞利養の道に陥るのを憂い、深くこれを戒められたというのです。

和尚は母の言葉に悔い、悟られて、以後は横川の首楞厳院にこもり、名利を離れ仏道の修行に励まれました。西暦一〇一七年七十六歳をもってお浄土へご往生になりました。

源信和尚の著述・教義の発揮

源信和尚の著述

源信和尚の著述はおよそ七十余部、百五十巻になりますが親鸞聖人は

『往生要集』　三巻

を浄土真宗のお聖教に指定されました。

源信和尚の教義の発揮

親鸞聖人は「高僧和讃」源信讃に

霊山聴衆とおはしける
源信僧都のをしへには
報化二土をしへてぞ
専雑の得失さだめたる

と源信和尚の教義について述べられています。

現代語では

かつて霊鷲山で釈尊の教えを聞いておられた源信和尚は、真実の浄土と方便の浄土の違いを教え示し、念仏をもっぱら修めることが、さまざまな行を修めることよりも、はるかにすぐれていると明らかにされた。

となります。

この和讃に源信和尚の教義の発揮が明らかになっています。

源信和尚の教義の発揮は
報化二土の判
専修・雑修の優劣

です。

報化二土の判とはお浄土には報土（真実の浄土）と化土（方便の浄土）があるということです。

専修・雑修の専修とは本願の名号を疑い心なく称えることで、雑修とはいろいろな意味がありますが、様々な行を修めること、お念仏を申しても自力心がある場合などをいいます。

疑いの心なくお念仏を申す専修の人は真実のお浄土（報土）に往生できるが、お念仏を申しても自力心のある雑修の人は方便の浄土（化土）にしか往生できません。

源信和尚は、お浄土には本願に報いて建てられた真実報土と、多くの人々に自力を捨てさせるために仮に建てられた方便化土があることを明らかにされたのです。

親鸞聖人は「高僧和讃」源信讃で次のように讃えられます。

極悪深重の衆生は
他の方便さらになし
ひとへに弥陀を称してぞ
浄土にうまるとのべたまふ

法語の世界

《原　文》

今生のことを心に入るるほど、仏法を心腹に入れたきことにて候ふと、人申し候ば、世間に対様して申すことは大様なり。ただ仏法をふかくよろこぶべしと云々。またいはく、一日一日に仏法はたしなみ候ふべし。一期とおもへば大儀なりと、人申され候ふ。またいはく、大儀なると思ふは不足なり。人として命はいかほどもながく候ひても、あかずよろこぶべきことなりと云々。

（『蓮如上人御一代記聞書』　二百七十七）

《現代語訳》

ある人が、「この世のことに関心を持つのと同じくらい、仏法のことに心を寄せたいものです」といったところ、蓮如上人は、「仏法を世間のことと対等に並べていうのは、粗雑である。ただ仏法のことだけを深く喜びなさい」と仰せになりました。また、ある人が、「仏法は、一日一日今日を限りと思って心がけるものです。一生の間と思うから、わずらわしく思うのです」というと、別の人が、「わずらわしいと思うのは、仏法を十分心得ていないからです。人の命がどれほど長くても、仏法は飽きることなく喜ぶべきものです」といいました。

２０２２（令和４）年　恩講、秋参り（家庭報恩講）の日程について

本年の恩講・秋参り（家庭報恩講）の日程についてお知らせします。
恩講の期日が未定の地区（波帰）は早めに相談をお願いします。例年どおりで記載していますが、決定ではありませんので相談をお願いします。
遠方（熊本市・益城町・御船町・宇城市、延岡市・日向市、宮崎市、高千穂町）と中入・大平、渡瀬、山都町の秋参り（家庭報恩講）の日程はハガキでお知らせします。
なお、葬儀が入りましたら秋参り（家庭報恩講）の日程は変更します。

□　恩　講

１０月	２４日	大石の内
	２６日	古賀西
	２７日	古賀東
１１月	１日	深谷・矢惣園・折立
	９日	広瀬
	１２日	小川
	１７日	本屋敷
	１８日	水流・木合屋
	１９日	長峰
	２０日	揚
	２２日	スクナ原・原尾野
	２３日	荻原、倉本
	２４日	道の上
１２月	４日	荒谷

□　秋参り（家庭報恩講）

１０月	２０日	丁子、中村
	２１日	中村、中園、寺村、東光寺
	２６日	笠部、東光寺、寺村
	２７日	寺村、東光寺、一の瀬
１１月	９日	春目
	１２日	下川、三ケ所